



くぬぎ通信



2020年11月発行 第351号
市原第7団ボーイ隊長 土橋一弘
2020年11月度テーマ ; 風をうけてゆこう

10月度 隊活動

10月の活動は技能章(救急章)取得に向けて「救急法」の座学・実技訓練を行ないました。

スカウト進級手帳にある体調管理や止血法、応急手当、三角巾の使い方などは班長訓練を通じて班集会で実施。心肺蘇生法やAED使用法は隊集会の中で、普通救命講習としてeラーニングと姉崎消防署所員による実技訓練を行ないました。

また、班集会・隊集会の活動内容は全て各スカウトが活動報告書にとりまとめたところです。

では、スカウトたちはボーイスカウト活動中や家庭・学校・街中でケガ・事故にあった人を助けられるでしょうか。

間違いなく、救急について学んだことが無い大人より、有効な対応方法を理解していることでしょう。

しかし、もしもの時、行動を起こすために必要なのは「自分がやらなきゃ」という気持ち。「スカウトは勇敢である」

スカウト諸君へ

11月以降の隊活動予定

テーマ ; 風をうけてゆこう

活動目標 ; 班活動を通じて、自分の役責を果たすことを学ぶ。
自ら考え判断する力を養う。

プログラム ; サイクリング

ソング ; どこまでもゆこう P55 わが旗かざし P52

当番班 ; バッファロー班

日時	場所	集会	内容
8日(日) 18時~	姉崎公民館	班長会議	11月、12月活動
8日(日) 19時~	姉崎公民館	班長訓練	サイクリングスキル
未定	未定	班集会(各班)	11月活動
22日(日)	市原周辺エリア	隊集会	サイクリング

「スカウト運動」 E.E.REYNOLDS より(一部加筆修正要約) ※348号からの続き。

~初期のころ~

初期のころ、ボーイスカウトの隊はどのように運営されていたのだろうか。ニューポート(イギリス南西部の都市)のワイト島で初めて作られた「ニューポート第1隊」について述べてみよう。

隊を作ったJ. H. パージェス氏は多くの指導者と同様に、社会的に認められずとも、もくもくとスカウト活動をこなす人物であり、スカウトたちが立派な社会人になるために役立っているであろうという自覚と、心のやすらぎを持っている人物であった。

1908年1月初旬、彼がなにげなく通りかかった新聞屋の窓越しに「スカウティング・フォア・ボーイズ」という小冊子を見つけ買い求めた。この内容に傾倒し彼は少年たちに声をかけたところ、スカウト活動が辺境開拓者の生活に似ていることに魅力を感じ、この新しいゲームに参加しようとする少年たちが殺到する。かくして、獵犬・おおかみ・かもめ・とら、という4つの班が誕生した。

しかし、ボーイスカウトとして、スカウティング・フォア・ボーイズに描かれた制服を熱望したものの、一般に製造されているものは無く、いろいろな種類の服装や奇妙な帽子をかぶった姿であったりした。

1908年3月には正式な登録証を受け、その登録証には次の様に記されていた。「きみは今やスカウトになったのだ、君が名誉にかけて常に最善を尽くして義務をなすとげ、日日の善行をなすことを私は信じて疑わない。R. S. S. ベーデン・パウエル」

当時はあらゆる装備が原始的で劣っていた状況であり、普段の生活のためはもちろん、スカウト活動に必要な装備を手に入れるために、少年たちは働かなければならず、また不便や不足に耐えなければならなかった。

テントを手作りする材料を入手するために、スカウト手作りの手芸工作を売りに出し費用をねん出したりもしていた。後年、財政豊かになり何の不足もなくなると、スカウトになくはならない開拓者精神の点で欠けることがしばしばあったのである。

※ 初回からは市原第7団ホームページに掲載の第343号からご覧ください。

<活動状況写真>

